

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
先行きについては改善の動きがみられる。

〔景況感DI〕

- ・前期比で3.9ポイント減少し▲44.7となり、2期連続悪化した。
- ・業種別では、製造業、非製造業ともに2期連続悪化した。

〔景況感の先行きDI〕

- ・前期比で7.3ポイント減少し▲24.7となった。2期ぶりに悪化した。

〔売上げDI、資金繰りDI及び採算DI〕

- ・売上げDIは▲19.5となり、2期ぶりに改善した。
- ・資金繰りDIは▲18.4となり、3期ぶりに悪化した。
- ・採算DIは▲25.6となり、2期ぶりに改善した。

〔設備投資の実施率〕

- ・前期比で2.1%増加し23.7%となり、2期ぶりに増加した。

〔来期の見通し〕

- ・売上げDI及び採算DIは当期DIより改善し、資金繰りDIは当期DIより悪化する見通しである。
- ・設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和7年1～3月期、「当期」：令和7年4～6月期、「来期(先行き)」：令和7年7～9月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

(1) 景況感

自社業界の景況感DIは▲44.7（前期比▲3.9）となり、2期連続悪化した。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続悪化した。

〔景況感DIの推移〕

	当 期 (R7.4-6)	前 期 (R7.1-3)	前年同期 (R6.4-6)
全 体	▲44.7	▲40.8	▲43.1
製 造 業	▲49.8	▲46.9	▲50.8
非製造業	▲40.7	▲36.1	▲37.4

(2) 来期の見通し

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は5.5%（前期比▲2.2%）、
「悪い方向に向かう」とみる企業は30.2%（前期比+5.0%）だった。
先行きDIは▲24.7（前期比▲7.3）と、2期ぶりに悪化した。

〔来期の見通し〕

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R7.7-9)
全 体	5.5%	30.2%	▲24.7
製 造 業	6.0%	33.3%	▲27.3
非製造業	5.1%	27.8%	▲22.7

2 売上げについて

売上げD Iは▲19.5（前期比+2.8）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〔売上げD Iの推移〕

	当 期 (R7.4-6)	前 期 (R7.1-3)	前年同期 (R6.4-6)	来期見通し (R7.7-9)
全 体	▲19.5	▲22.3	▲18.5	▲17.0
製 造 業	▲19.9	▲24.5	▲23.4	▲17.4
非製造業	▲19.2	▲20.6	▲14.9	▲16.6

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲18.4（前期比▲9.5）となり、3期ぶりに悪化した。来期は悪化する見通し。
業種別にみると、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〔資金繰りD Iの推移〕

	当 期 (R7.4-6)	前 期 (R7.1-3)	前年同期 (R6.4-6)	来期見通し (R7.7-9)
全 体	▲18.4	▲8.9	▲18.5	▲21.4
製 造 業	▲19.2	▲21.9	▲23.5	▲21.3
非製造業	▲17.8	▲0.4	▲14.7	▲21.5

4 採算について

採算D Iは▲25.6（前期比+1.0）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は3期ぶりに改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〔採算D Iの推移〕

	当 期 (R7.4-6)	前 期 (R7.1-3)	前年同期 (R6.4-6)	来期見通し (R7.7-9)
全 体	▲25.6	▲26.6	▲26.7	▲22.5
製 造 業	▲24.7	▲26.9	▲30.4	▲23.5
非製造業	▲26.2	▲26.3	▲23.9	▲21.7

5 設備投資について

設備投資の実施率は23.7%（前期比+2.1%）となり、2期ぶりに増加した。

来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期ぶりに増加し、非製造業は2期ぶりに増加した。

来期については、製造業は当期の実施率より増加し、非製造業は減少する見通しである。

〔設備投資の実施率〕

	当 期 (R7.4-6)	前 期 (R7.1-3)	前年同期 (R6.4-6)	来期見通し (R7.7-9)
全 体	23.7%	21.6%	19.9%	21.8%
製 造 業	27.8%	24.1%	23.0%	29.5%
非製造業	20.5%	19.7%	17.7%	15.9%

6 ヒアリング調査の概況

※ 詳細はP19を御覧ください。

（１）売上げ・採算について

業種	コメント
宿泊業	リピート客の増加により、売上高は増加傾向にある。
食料品製造	人件費の上昇に対応するため、機械化を進めた結果、採算性は一定水準を維持している。
商店街	来店客数は増加しているものの、人件費の上昇により、採算性は低下した。
一般機械器具	自社開発商品が順調であり、前年同期比で売上高は増加した。
印刷業	顧客が他社に発注を切り替えるリスクから、価格転嫁が難航している。
プラスチック製品	生産量は減少しているものの、価格転嫁の進展により、売上高は横ばいである。
小売業	仕入価格の上昇を販売価格に十分転嫁できておらず、採算は悪化している。

（２）現在の景況感について

業種	コメント
プラスチック製品	商談会経由で大型案件を受注できたため、好況である。
一般機械器具	米国関税政策の影響により、受注案件が保留となっており、不況である。
飲食店	来店客数は変わらないものの、テイクアウト需要が高く好況である。
輸送用機械器具	価格競争により受注機会が減少する懸念が高まっており、不況である。
運輸業	コストが上昇している一方で、荷主からの条件も厳しく不況である。
建設業	景況感は普通である。大手ゼネコンは順調と発表しているが、下請けには実感はない。
電気機械器具	製品によって好調と不調が分かれている。全体的な景況感は普通である。

（３）今後の見通しについて

業種	コメント
金属製品	米国関税政策の影響で、生産予定が見えてこないため、先行きは不透明である。
情報サービス業	大型案件を複数受注できており、良い方向に向かっていくとみている。
一般機械器具	業界では技術者の不足が深刻化しており、廃業が増えるかとみている。
食料品製造	新分野の開拓が軌道に乗っており、今後の見通しは明るい。
工業塗装	米国の関税政策による自動車関連の受注減少が予見され、先行きの不透明感が強い。
宿泊業	個人客の予約が順調であり、良い方向に向かっていくとみている。
小売業	物価の上昇は消費マインドの低下につながるため、販売量が落ち込むのではないかと懸念している。